

信大病院市民公開講座「心臓血管病の未来を拓く」

治療・予防法 大きな関心



信大病院の市民公開講座「心臓血管病の未来を拓く」のパネルディスカッション

来年度に先端心臓血管病センターの開設を計画している信大病院(岡山県院長・松本市)は、市民公開講座「心臓血管病の未来を拓く(ひろく)」(信濃毎日新聞社など後援)を岡市内で開いた。副理事長(こづさく)、心臓病、閉塞性動脈硬化症の三大血管病は、合計すると腫瘍(しゅよう)を超えて日本人の死因の第一位を占めており、その治療・予防法は大きな関心を集めている。参加者からの質問を基に進められた、今日二日のパネルディスカッションの内容を紹介する。(司会は飯島裕一、信濃毎日新聞編集委員)

「不整脈」とはどんな脳の血管に飛んで脳梗塞を起す点、このタイプなものか。

日本人の死因第1位

再生医療臨床応用へ

池田幸一・循環器内科長 正常な心臓は規則正しく拍動しているが、それが乱れたり時々休んでしまふのが不整脈。多くは加齢や疲れとともに出るもので心配ない。中でも多い「心房細動」は、命にかかわらない不整脈と言える。

ただ問題なのが、不整脈の時に心臓の中で小さな血の塊ができ、それが

の不整脈は放置してもいいが、この血栓は薬で防

ようにして起きるか。

天野純・心臓血管外科 長 血管が狭くなると血

臓病の治療は、心臓移植

は加齢や疲れとともに出るもので心配ない。中でも多い「心房細動」は、命にかかわらない不整脈と言える。

ただ問題なのが、不整脈の時に心臓の中で小さな血の塊ができ、それが

の不整脈は放置してもいいが、この血栓は薬で防

ようにして起きるか。

天野純・心臓血管外科 長 血管が狭くなると血

臓病の治療は、心臓移植

は加齢や疲れとともに出るもので心配ない。中でも多い「心房細動」は、命にかかわらない不整脈と言える。

ただ問題なのが、不整脈の時に心臓の中で小さな血の塊ができ、それが

の不整脈は放置してもいいが、この血栓は薬で防

ようにして起きるか。

天野純・心臓血管外科 長 血管が狭くなると血

臓病の治療は、心臓移植

科学

天野純・心臓血管外科 長 血管が狭くなると血

臓病の治療は、心臓移植